

説教題:時の創造者

●み言葉

神のなさることは、すべて時にかなって美しい。

伝道者の書3章11節a

●み言葉の一滴

◎時の創造者

第四日に、神さまは「光る物」を創造されました。それは二つの大きな光る物として創造されました。光る物のうち大きい方に昼を治めさせ、小さい方に夜を治めさせました。そのために光る物は天の大空に置かれました。また星も創造されました。それらによって地上を照らさせ光と闇を分けられました。

「定められた時々のため」すなわち季節や日や年のしるしとなるためにそれらは造られました。「時間」を創造されたのです。もちろんはじめに創造を開始された瞬間からすでに「時間」は存在したことでしょう。しかしその「時間」は神さまと関係なく、あるいは神さまのコントロールの手を離れて存在したものではありません。第四日の創造のわざによって、時間が神さまの御手の中にあることが明らかとなりました。

時間はすべての人に平等に与えられています。しかしある人は時間がないといい、ある人は時間が有り余っているといいます。また同じ人でも、ある時には時間が足りなくなり、ある時には時間を持て余します。また早く過ぎてしまう時間もあれば、なかなか過ぎてゆかない時間もあります。充実した時間もあれば、空虚な時間もあります。時間は不思議です。

「すべてのことには定まった時期があり、／天の下のすべての営みに時がある。」(伝道者の書3章1節)

「神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。」(伝道者の書3章11節)

「時間」は神さまが創造され、いまも神さまの御手の中にあると聖書は語ります。
「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことにおいて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」(第1テサロニケ5章16～18節)

神さまとお出会いし、すべての「時間」が神さまの御手の中にあると信じる時、空虚な時間はひとつもなく、祈りの時間となり、喜びと感謝の時間となります。

◎神さまと出会う時、自分に出会う時、お互いに出会う時

「しかし時が満ちて、神はご自分の御子を、女から生まれた者、律法の下にある者として遣わされました。」(ガラテヤ4章4節)

イエスさまは、時が満ちてこの地にお降りくださいました。

「神は言われます。／「恵みの時に、わたしはあなたに答え、／救いの日に、あなたを助ける。」／見よ、今は恵みの時、今は救いの日です。」(第2コリント6章2節)

すべてのときは、神さまとの出会いのために備えられています。神さまとの出会いを欠くならば、すべての時は空しく過ぎ去ります。神さまとの出会いによって、私たちはあらためて自分自身に出会います。

またすべての時は、自分との出会いの時です。自分と出会い、自分を受け入れるために時間はあるのです。

さらに時間は、隣人を愛するために備えられています。豊かな時間とは、自分の願望のままに、また自分勝手に時を過ごすことによるのではなく、愛する人びとと共に過ごすことによるのです。そのために、季節があり、日があり、年があるのです。

●祈り

- すべてのときを神さまとの出会い、自分との出会い、隣人との出会いの時として、喜ぶことができますように。
- いつも喜び、祈り、感謝に生きることができますように。